

平成 30 年度事業報告

平成 30 年度は、一般社団法人になり 6 年目であった。

平成 31 年 1 月 29 日、かねてから病氣療養中だった本間 信哉会長が逝去されたため、3 月の理事会に於いて新会長には桂 重之副会長が選任された。

「休日・夜間院外処方せん応需事業」については、A 型インフルエンザの流行が例年とは違い 1 月に爆発的に流行し、1 月 13 日と 14 日の連休には、1 日 300 名近くの患者さんが来局し、終了が午後 12 時をすぎるほどだった。それに比べて B 型は例年よりも流行が少なかったため、2 月 3 月は患者さんの数が 1 月よりも大幅に減少した。平成 27 年度より受託した中条地区休日診療所の調剤業務は順調に行われた。村上市では、インフルエンザの流行した 1 月に 4 回の出務があった。

本会が継続運営している FAX コーナーについては、設置している全病院で通過件数が減った為通過単価が上がった。

支援センター薬局については、昨年度に比べて処方せん枚数が微増した。収入は約 240 万円増え、仕入れも約 380 万円増えた。ジェネリックの普及により備蓄の品目数も増えたと思われる。平成 30 年 10 月に新しい常勤の薬剤師の確保が出来たことで、業務はスムーズにいくようになった。人件費は 170 万円ほど増えたが、収支においては昨年度よりは減ったがプラスとなった。

不動産在庫医薬品売買支援事業については、昨年度より会員薬局の利用も販売額ともにわずかに増えたが、差損益は減った。しかし事務作業に係る人件費を出しても収支はとれた。

在宅医療への参加については、昨年度に続き他職種連携の動きが盛んになり、地区ごとに他職種の研修会やワークショップなどが行われた。ときネットは薬剤情報共有システムの稼働が始まったが、参加医療機関が増えていない為、本格的な稼働には至っていない。村上地区においても同様な動きがあり、参加薬局は多いのだが、本格的な稼働には至っていない。

今年度も薬学生実務実習は、1 期 6 名と 2 期に 6 名、3 期は 2 名の受け入れを行った。各期では集合研修も行い、実務実習指導薬剤師同士の交流もはかった。

会費については、県薬の会費検討委員会がまだ結論を出しておらず、当会の会費検討委員会も開催はなかった。

[重点事業報告]

1. 「休日・夜間院外処方せん応需事業」は、インフルエンザの流行が、例年とは違い 1 月に A 型が爆発的に流行し、1 日 300 名近く来局した日も 2 日間あった。しかし、2 月と 3 月はほとんど流行が無く、例年よりはインフルエンザの患者さんの数は減った。今年も休日や土曜夜間は 3 月末まで薬剤師二人体制で対応した。インフルの爆発時に、処方せんの入力に間に合わず、患者さんをお待たせしたこともあり、3 月に入力を 2 ヶ所で行うために、スキャナーとシール印字機を購入した。処方せん応需枚数は平成 29 年度と比べて 130 枚程度増え、収入も約 100 万円増えた。

今年度も処方せんは新発田地区救急診療所からのものだけとは限らず、他の医療機関

からのものも多く見受けられ、昨年度よりは応需医療機関数は減ったが、事業を行なうことにより地域の皆様のお役に立てていることは実感できた。

また、中条地区休日診療所薬剤師派遣事業は、昨年度とほとんど変わらない処方せん枚数だったが、インフルエンザの影響で1月には1日50枚を超える日もあった。

村上急患診療所への薬剤師の派遣は、インフルエンザの流行期に4回要請があり派遣を行なった。

2. 下越薬剤師会支援センター薬局は今年度も順調に業務を行なった。
処方せん枚数はほぼ変わらなかったが、腹膜透析の患者さんが増えたことなどから、調剤収入は約240万円増えた。ジェネリックや腹膜透析関係の仕入が多かったことなどから支出も380万増えた。10月から薬剤師を増員し人件費は170万円程度増えたが、収支はプラスだった。
3. 不動産在庫医薬品の買取・譲渡は、売買率の変更はなかった。昨年度より取扱い品目・医薬品数はわずかに増えたが、収益は少し減った。(4ページ参照)
4. 在宅医療の推進は、他職種との顔の見える関係が築かれつつあり、研修会もたくさんあり参加も多かった。トキネットは薬剤情報共有システムの稼働できる状態になっていたが、本格的な稼働には至っていない。村上地区もほぼ同様の動きがあった。
5. 管内各地区の基幹病院に開設している有人FAXコーナーは、今年度も全体的に院外処方せん発行枚数、FAX通過件数が減った為、賦課金については1枚あたりの通過単価は上がった。(5ページ参照)
6. 今年度の研修会は昨年度に比べ開催回数は少し増え、参加人数も少し増加した。研修シールをつけた研修会だけで年間39回、参加総人数はのべ541名であった。
7. 情報委員会は、下越薬剤師会ホームページのメンテナンスと改良を行った。
8. 薬学生実務実習委員会は9年目を迎える実務実習を円滑に行なう為、実務実習指導薬剤師交流会・新コアカリについての伝達講習会を開催した。またその際に要望があった集合研修も企画して、通算6回の集合研修を実施した。
9. 会費検討委員会は、新潟県薬剤師会の会費は変更がなかったことから、平成30年度も開催を見送った。

[項目的事業報告]

1 会 議

- ・ 総 会・・・平成 30 年 6 月 30 日（北辰館にて）
平成 31 年 3 月 23 日（下越薬剤師会支援センター 2 階会議室にて）
- ・ 理 事 会・・・平成 30 年 6 月 9 日、7 月 28 日、11 月 10 日
平成 31 年 2 月 23 日、3 月 23 日、
- ・ 総務委員会・・・平成 30 年 6 月 1 日、7 月 26 日、11 月 8 日
平成 31 年 2 月 22 日

2 委 員 会 等

(1) 情報委員会……下越薬剤師会にて

今年度は、次の 3 点について活動した。

- ① 下越薬剤師会ホームページのメンテナンスと改良を行った。
Googleカレンダーを利用して、休診の当番表をホームページにアップした。ホームページのメンテナンスの為、ホームページビルダー21にバージョンアップした。
医療事故報告書・服薬情報提供料に係る情報提供書を「各種用紙・検査器具」のページにアップした。マップの不具合の対策を検討した。
- ② 各種の要望によりB-Bickの改良を行った。
変更報告書の作成時の不具合を改善し、バージョンアップを行なった。
- ③ 薬価改定他、薬価収載、名称変更のB-Bickのデータの更新とメンテナンスを行った。

活動日・・・下記の計 8 回

平成 30 年 4 月 27 日、6 月 15 日、7 月 13 日、9 月 14 日、
10 月 25 日、11 月 16 日
平成 31 年 1 月 25 日、3 月 1 日

(2) 学術委員会学術研修会及びその他の研修会（研修シール発行は 6-7 ページ参照）

・新発田地区・下越全体対象研修会・・・6 回と医師会 10 回参加

その他の地区の研修会・共催の研修会・・・23 回

（6 ページ参照）